

ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がんなど)について

1. ヒトパピローマウイルス感染症とは？

- ・ヒトパピローマウイルス(ヒト乳頭腫ウイルス)は150種類以上あり、皮膚のいぼだけでなく子宮頸がん、尖圭コンジローマや肛門がんなども引き起こします。
- ・子宮頸がんは毎年約15,000人が発病して、3,500人が死亡する重大な病気です。
- ・**子宮頸がんを起こす16型、18型ウイルスなどは主に性行為を通じて知らない間に約80%の人がかかっています。性行為の開始年齢が低くなり、患者数が急増しています。**他のがんと異なり、20~30歳代の若い女性でも多くかかります。

2. 症状・経過は？

- ・ヒトパピローマウイルスにかかると約10%の人は軽い前がん状態になりますが、多くは自然と治ります。
- ・がんになっても自覚症状がなく、進行すると大手術になり、重い障害が残ることがあります。

3. ワクチンの効果と副作用(副反応)は？

- ・9価HPVワクチン(シルガード):HPV16/18/31/33/45/52/58型の感染とそれによる子宮頸部異形成の予防、HPV6/11の感染とそれによる尖圭コンジローマの予防
- ・不活化ワクチンです。
- ・**ワクチンで防げないタイプのウイルスもいますので、必ず20歳から子宮頸がん検診を受け、早期発見に努めてください。**

4. 予防接種の受け方と時期は？

- ・性行為を開始するより前の年齢で接種を始めましょう。標準的な接種年齢は中学1年生です。
 - ・緊張しやすい人や立ちくらみを起こしやすい人は、事前に接種医に伝えて、横になって受れたり、接種後15~30分程度は院内にとどまったりしてください。
- *妊婦又は妊娠している可能性のある女性の接種は妊娠終了まで延期する、また接種期間の途中で妊娠した際には、その後の接種は見合わせるものとされています。

5. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会で審議され、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。※給付申請の必要が生じた場合には、子育て支援課へご相談ください。

6. その他

- ※接種後30分間は特に体調の変化が起こりやすいのでご注意ください、接種機関もしくは医師と連絡ができるようにしてください。

HPVワクチンのこれまでの経緯とは？

HPVワクチンは平成25年4月より定期予防接種として実施していますが、接種後の痛みや運動障害などの多様な症状の報告が相次いだことから、厚生労働省は同年6月14日から積極的な接種勧奨を差し控えていました。このことにより、HPVワクチン接種率は大きく低下しました。一方では接種していない世代における子宮頸がん患者が今後増加することが懸念されています。